# 行こう、おけとの森へ

今回は、鹿の子沢風景林の魅力と楽しみ方を紹介します。

## 鹿の子沢に行ってきた人

**平野友幹（ひらのともき）さん**
網走中部森林管理署置戸森林事務所に勤務。春から月1回、鹿の子沢季節便りを発行、町内に配布。

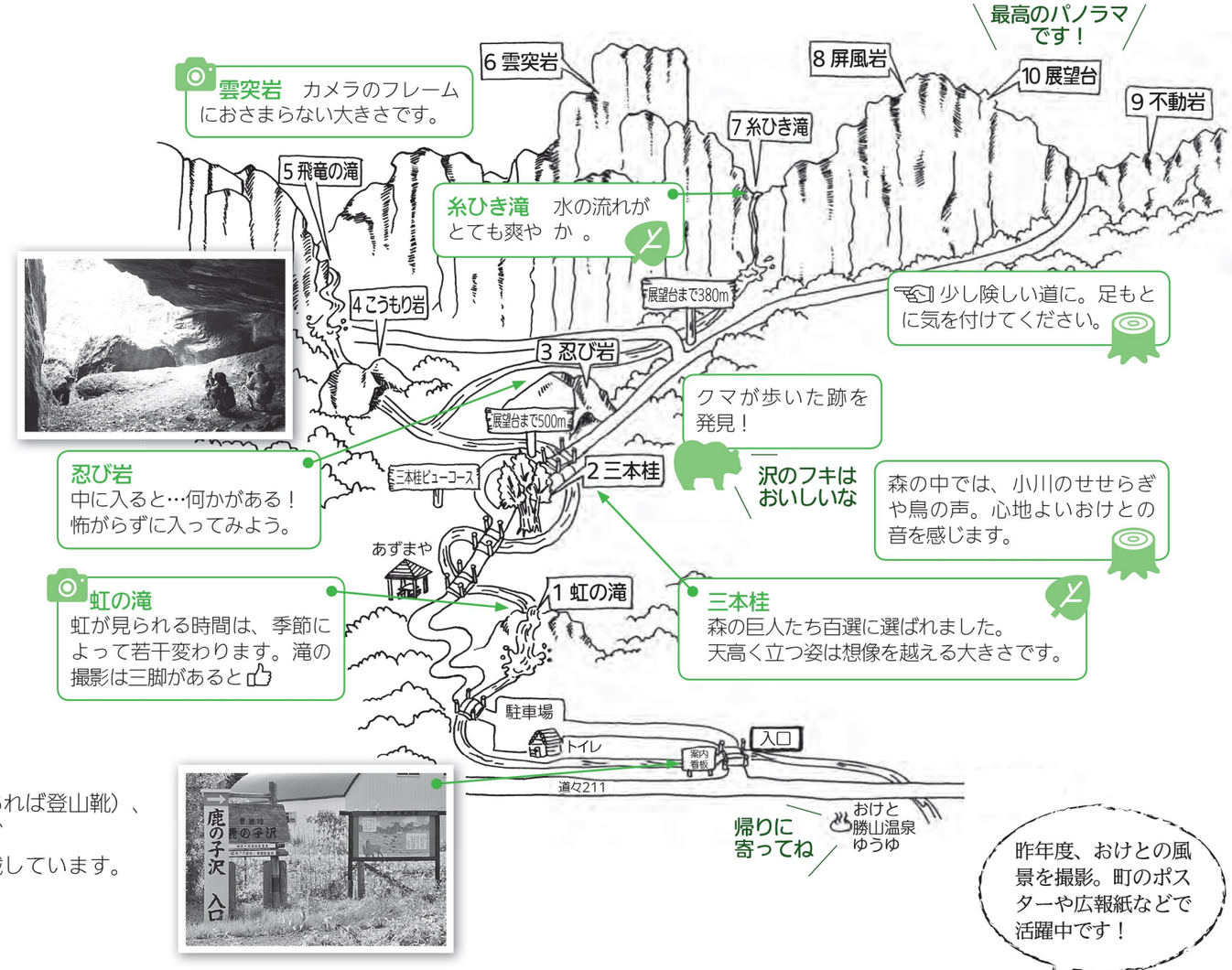
**もくちゃん**
木工と手道具に熟知。鹿の子沢は初めて散策。

**みどりちゃん**
オケクラフトが大好き。鹿の子沢は初めて散策。

**広報さん**
撮影担当。忍び岩の中からの撮影が好き。

### 持ち物など

長袖、長ズボン、帽子、手袋、滑りにくい運動靴（あれば登山靴）、飲料水、携帯食、虫よけスプレー、クマ避けの鈴など
※国有林に入林する際の注意事項は、５ページに記載しています。







## 鹿の子沢の場所は？

鹿の子沢風景林は、置戸町の常元、常呂川の上流である仁居常呂川流域に広がる山稜地帯にあります。平均標高450m、面積は約291ha。置戸市街地から車で30分の距離です。沢があり自然豊かな環境の中、さまざまな植物が植生しています。

過去に調査された植物分布資料によると、鹿の子沢には約200種類の植物の生育が確認されています。

## ねえ、知ってる？鹿の子沢の名の由来

おけとの景勝地「鹿の子沢」。誰が名付けた名前なのか、ご存知ですか？さかのぼること昭和25年頃、当時、流行作詞家として活躍していた時雨（しぐれ）音羽（おとは）さんと町内で木材業を営んでいた菊地久三さんが知人だったことが縁となり、時雨さんに文化講演会を依頼。時雨さんが来町時、町長や公民館長とのお酒の席でおけとの歌を作ることを思い立ち、翌日には営林署長が鹿の子沢を案内しました。

それまで沢や滝、岩にも名前がなかった鹿の子沢でしたが、後日、東京に帰った時雨さんから、「鹿の子川」という詩が寄せられました。その詩の中に虹の滝や三本桂、忍び岩、雲突岩、糸引き滝などの名前が付けられていたそうです。このことがきっかけで「鹿の子沢」と呼ばれるようになりました。

また、おけとの歌は『置戸音頭』と『置戸小唄』の２曲となり、今日まで町民に親しまれています。

## フォトグラファー田口真樹子さん×鹿の子沢

入口で迎えてくれる虹の滝は、この先に続く道への期待を高めてくれます。更に奥へと進むには決して平坦でありませんが、安全に進んで帰りに必ずまた虹の滝を拝もうと山や野生植物・動物への畏怖の念で気持ちを引き締めてくれます。小川が流れ、鳥や虫の声、風で木々が擦れる音に所々で足を止めると、足元に植物や秋には落ち葉が色とりどりに敷かれ、写真に撮っておきたくなるモチーフが沢山です。

こんな近場に、少しの時間で回ってこられるので、五感をフルに使って写真を撮りながら…スケッチしながら…誰かとの会話を楽しみながらなど、普段忙しく過ごす人にとっても心休められる、充電できる場所だと思います。

四季によって見られる植物が異なることも鹿の子沢の魅力。

カラマツソウ

自然災害や寿命で倒れた木を礎にして、新たな木が育つことを倒木更新といいます。ササなどの被陰による影響を受けにくく、植物が育ちやすい環境です。

倒木は森を育てるゆりかご

アート作品のような倒木

### YouTube×鹿の子沢

置戸町の公式YouTubeチャンネル「置戸町オフィシャルoketo」で鹿の子沢が動画で見られます。網走中部森林管理署のご協力で、ドローン撮影も行いました。ぜひご覧ください。